

2014年度制定

複合構造標準示方書 [原則編]

目 次

1章 総 則	1
1.1 適用の範囲	1
1.2 用語の定義	3
2章 性能確保の前提	5
2.1 一 般	5
2.2 設計段階での性能確保の前提	6
2.3 施工段階での性能確保の前提	7
2.4 維持管理段階での性能確保の前提	8
3章 要求性能	10
3.1 一 般	10
3.2 設計耐用期間	10
3.3 持 続 性	11
3.4 安 全 性	11
3.5 使 用 性	12
3.6 復 旧 性	12
4章 設 計	14
4.1 一 般	14
4.2 設計の原則	16
4.3 照査の原則	17
5章 施 工	21
5.1 一 般	21
6章 維持管理	23
6.1 一 般	23

複合構造標準示方書 原則編

[制定資料]

目 次

1. 原則編の全体概要	27
2. 「1章 総則」について	27
3. 「2章 性能確保の前提」について	27
4. 「3章 要求性能」について	28
5. 「4章 設計」について	29
6. 「5章 施工」について	31
7. 「6章 維持管理」について	31

2014年度制定

複合構造標準示方書 [設 計 編]

総 目 次

[標 準 編]

1 章 総 則	1
2 章 設計の基本	11
3 章 性能照査の基本	19
4 章 材料の設計値	32
5 章 ずれ止め	68
6 章 作 用	85
7 章 構造解析および応答値の算定	98
8 章 性能照査における前提	128
9 章 安全性に関する照査	147
10 章 使用性に関する照査	158
11 章 復旧性に関する照査	163

[仕 様 編]

I. 合成はり編

1 章 総 則	169
2 章 構造解析および応答値の算定	174
3 章 性能照査における前提	184
4 章 安全性に関する照査	190
5 章 使用性に関する照査	214
6 章 復旧性に関する照査	217

II. 鋼板コンクリート合成版編

1 章 総 則	219
2 章 構造解析および応答値の算定	225
3 章 性能照査における前提	231
4 章 安全性に関する照査	236
5 章 使用性に関する照査	244

6章 復旧性に関する照査	247
--------------	-----

Ⅲ. 鋼コンクリートサンドイッチ合成版編

1章 総 則	249
2章 構造解析および応答値の算定	254
3章 性能照査における前提	259
4章 安全性に関する照査	265
5章 使用性に関する照査	274
6章 復旧性に関する照査	277

Ⅳ. 鉄骨鉄筋コンクリート部材編

1章 総 則	279
2章 構造解析および応答値の算定	283
3章 性能照査における前提	302
4章 安全性に関する照査	311
5章 使用性に関する照査	322
6章 復旧性に関する照査	325

Ⅴ. コンクリート充填鋼管部材編

1章 総 則	329
2章 構造解析および応答値の算定	337
3章 性能照査における前提	351
4章 安全性に関する照査	356
5章 使用性に関する照査	363
6章 復旧性に関する照査	366

Ⅵ. FRP部材編

1章 総 則	371
2章 構造解析および応答値の算定	377
3章 性能照査における前提	385
4章 安全性に関する照査	395
5章 使用性に関する照査	408
6章 復旧性に関する照査	412

Ⅶ. 異種部材接合部編

1章 総 則	415
2章 構造解析および応答値の算定	419
3章 性能照査における前提	429
4章 安全性に関する照査	433

5章	使用性に関する照査	440
6章	復旧性に関する照査	444
7章	鋼桁と鉄筋コンクリート橋脚の接合部の照査	447
8章	鋼部材とプレストレストコンクリート部材の接合部の照査	452
9章	鋼部材とプレストレストコンクリート部材の支圧接合部の照査	458
10章	コンクリート充填鋼管部材のアンカーフレーム方式による接合部の照査	463
11章	コンクリート充填鋼管部材の埋込み方式による接合部の照査	469
12章	コンクリート充填鋼管部材のソケット方式による接合部の照査	476

VIII. 有限要素解析による性能照査編

1章	総 則	483
2章	材料のモデル化	493
3章	応答値の算定	522
4章	照 査	540
5章	解析の検証と妥当性評価	549

[付属資料]

土木構造用 FRP の品質規格 (案)	557
---------------------	-----

[改訂資料]

I.	設計編の全体概要	563
II.	標準編	567
III.	合成はり編	599
IV.	鋼板コンクリート合成版編	608
V.	鋼コンクリートサンドイッチ合成版編	615
VI.	鉄骨鉄筋コンクリート部材編	616
VII.	コンクリート充填鋼管部材編	626
VIII.	FRP 部材編	633
IX.	異種部材接合部編	665
X.	有限要素解析による性能照査編	671

複合構造標準示方書 [設計編]

[標準編]

目次

1章 総 則	1
1.1 適用の範囲	1
1.2 設計の原則	2
1.3 用語の定義	4
1.4 記 号	5
2章 設計の基本	11
2.1 一 般	11
2.2 要求性能	11
2.3 構造計画	12
2.3.1 一 般	12
2.3.2 持続性に関する検討	14
2.3.3 安全性, 使用性, 復旧性に関する検討	15
2.3.4 施工に関する検討	17
2.3.5 維持管理に関する検討	17
3章 性能照査の基本	19
3.1 一 般	19
3.2 性能項目と限界状態	23
3.3 照査の前提	24
3.4 照査の方法	25
3.5 応答値と限界値の算定	26
3.6 安全係数	27
3.7 修正係数	30
3.8 設計計算書	30
3.9 設 計 図	30
4章 材料の設計値	32
4.1 一 般	32
4.2 コンクリート	33
4.2.1 一 般	33
4.2.2 コンクリートの強度	33
4.2.3 コンクリートの疲労強度	34
4.2.4 応力-ひずみ関係	34

4.2.5	ヤング係数	38
4.2.6	ポアソン比	38
4.2.7	熱特性	39
4.2.8	収縮	39
4.2.9	クリープ	40
4.2.10	低温度の影響	41
4.2.11	中性化速度係数	41
4.2.12	塩化物イオン拡散係数	41
4.2.13	凍結融解試験における相対動弾性係数	41
4.2.14	初期ひび割れに対する照査に用いる物性値	41
4.3	鉄筋およびPC鋼材	41
4.3.1	一般	41
4.3.2	強度	42
4.3.3	疲労強度	42
4.3.4	応力-ひずみ関係	42
4.3.5	ヤング係数	47
4.3.6	ポアソン比	47
4.3.7	熱膨張係数	47
4.3.8	PC鋼材のリラクゼーション率	47
4.3.9	低温度の影響	48
4.3.10	局所付着応力-すべり関係	48
4.3.11	部材接合面における定着鉄筋の変位量	50
4.4	構造用鋼材	51
4.4.1	構造用鋼材の種類	51
4.4.2	構造用鋼材の強度	52
4.4.3	コンクリートと一体となった構造用鋼材の圧縮強度	54
4.4.4	構造用鋼材に関する疲労強度	54
4.4.5	応力-ひずみ関係	55
4.4.6	ヤング係数	57
4.4.7	ポアソン比	57
4.4.8	熱膨張係数	57
4.4.9	鋼板とコンクリート間の相互作用	57
4.5	接合用鋼材	58
4.6	構造用FRP	58
4.6.1	構造用FRPの種類	58
4.6.2	構造用FRPの強度	59
4.6.3	疲労強度	60
4.6.4	応力-ひずみ関係	61

4.6.5	弾性係数	62
4.6.6	ポアソン比	63
4.6.7	熱膨張係数	63
4.6.8	クリープ	64
4.6.9	耐水性	64
4.6.10	耐アルカリ性	64
4.6.11	耐候性	64
4.7	補強用FRP	65
4.8	接着用樹脂材料	65
4.8.1	FRP部材に用いる接着剤	65
4.8.2	FRPにより補強された部材に用いる接着用樹脂材料	66
5章	ずれ止め	68
5.1	一般	68
5.2	頭付きスタッド	69
5.3	孔あき鋼板ジベル	74
5.4	ブロックジベル	78
5.5	形鋼シアコネクタ	82
6章	作用	85
6.1	一般	85
6.2	作用の特性値	86
6.3	作用係数	87
6.4	作用の種類	88
6.4.1	一般	88
6.4.2	死荷重	89
6.4.3	活荷重	90
6.4.4	土圧	90
6.4.5	水圧, 流体力および波力	90
6.4.6	プレストレス力	91
6.4.7	風荷重	91
6.4.8	雪荷重	92
6.4.9	温度の影響	93
6.4.10	乾湿の影響	93
6.4.11	地震の影響	94
6.4.12	環境作用	95
6.4.13	施工時荷重	97
6.4.14	火災の影響	97
6.4.15	その他の作用	97
7章	構造解析および応答値の算定	98

7.1	一般	98
7.2	モデル化	99
7.2.1	一般	99
7.2.2	作用のモデル化	99
7.2.2.1	一般	99
7.2.2.2	温度の影響	100
7.2.2.3	コンクリートの収縮の影響	101
7.2.2.4	コンクリートのクリープの影響	102
7.2.2.5	地震の影響	104
7.2.3	構造物のモデル化	108
7.2.3.1	一般	108
7.2.3.2	有限要素による部材および接合部のモデル化	109
7.2.3.3	線材による部材のモデル化	109
7.2.4	地盤のモデル化	111
7.2.4.1	一般	111
7.2.4.2	有限要素によるモデル化	112
7.2.4.3	バネによるモデル化	113
7.3	構造解析	114
7.3.1	一般	114
7.3.2	安全性の照査に関する構造解析	116
7.3.2.1	最大作用に対する破壊（断面破壊）の照査に関する構造解析	116
7.3.2.2	繰返し作用による破壊（疲労破壊）の照査に関する構造解析	117
7.3.2.3	構造物の安定の照査に関する構造解析	118
7.3.3	使用性の照査に関する構造解析	118
7.3.4	復旧性の照査に関する構造解析	119
7.3.4.1	構造物の修復性の照査に関する構造解析	119
7.3.4.2	構造物と地盤を個別に解析する方法	121
7.4	設計応答値の算定	123
7.4.1	一般	123
7.4.2	断面力の算定	123
7.4.3	応力度の算定	123
7.4.4	コンクリートのひび割れ幅の算定	124
7.4.5	部材の変位・変形の算定	127
8章	性能照査における前提	128
8.1	一般	128
8.2	耐久性に関する検討	128
8.2.1	一般	128
8.2.2	鋼材の腐食に関する検討	129

8.2.2.1	一 般	129
8.2.2.2	コンクリートの中酸化に伴う鋼材腐食	130
8.2.2.3	塩化物イオンの侵入に伴う鋼材腐食	131
8.2.2.4	鋼材とコンクリートの境界部における鋼材腐食	132
8.2.3	コンクリートの劣化に関する検討	133
8.2.4	FRPの劣化に関する検討	134
8.2.5	接着剤の劣化に関する検討	136
8.2.6	初期ひび割れに関する検討	136
8.2.7	防水・排水に関する検討	137
8.3	構造細目	137
8.3.1	一 般	137
8.3.2	鋼 材	138
8.3.2.1	鋼材のかぶり	138
8.3.2.2	鋼材のあき	138
8.3.2.3	鋼材の定着	139
8.3.3	ずれ止め	139
8.3.3.1	一 般	139
8.3.3.2	頭付きスタッド	140
8.3.3.3	孔あき鋼板ジベル	141
8.3.3.4	ブロックジベル	142
8.3.3.5	形鋼シアコネクタ	143
8.4	施工に関する検討	144
8.4.1	一 般	144
8.4.2	鋼部材の製作・架設	144
8.4.2.1	コンクリートの施工に関する検討	144
8.4.2.2	鋼材の溶接	144
8.4.2.3	鋼材とコンクリートとの接触面の処理	145
8.4.3	コンクリートの施工	145
8.4.3.1	一 般	145
8.4.3.2	鋼板に囲まれた空間へのコンクリートの打込み	145
9章	安全性に関する照査	147
9.1	一 般	147
9.2	構造物の耐荷性に対する照査	147
9.2.1	一 般	147
9.2.2	最大作用による破壊（断面破壊）に対する照査	148
9.2.2.1	一 般	148
9.2.2.2	曲げモーメントおよび軸方向力に対する部材の照査	148
9.2.2.3	せん断力に対する部材の照査	151

9.2.2.4	ねじりに対する部材の照査	152
9.2.2.5	ずれ止めの照査	153
9.2.3	繰返し作用による破壊（疲労破壊）に対する照査	154
9.3	構造物の安定性に対する照査	156
9.4	構造物の機能上の安全性に対する照査	157
10章	使用性に関する照査	158
10.1	一般	158
10.2	使用性の照査の前提	158
10.3	快適性に対する照査	160
10.3.1	一般	160
10.3.2	外観に対する照査	160
10.3.3	振動に対する照査	161
10.3.4	変位・変形の照査	161
10.4	機能性に対する照査	162
10.4.1	一般	162
10.4.2	水密性に対する照査	162
10.4.3	損傷（機能維持）に対する照査	162
11章	復旧性に関する照査	163
11.1	一般	163
11.2	地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	164
11.2.1	一般	164
11.2.2	棒部材の限界値	165
11.2.3	面部材の限界値	165
11.2.4	構造物の残留変位に対する照査	166
11.3	火災作用に対する修復性の照査	166
11.4	環境作用に対する修復性の照査	167

複合構造標準示方書 [設 計 編]

[仕 様 編]

目 次

I. 合成はり編

1 章 総 則	169
2 章 構造解析および応答値の算定	174
3 章 性能照査における前提	184
4 章 安全性に関する照査	190
5 章 使用性に関する照査	214
6 章 復旧性に関する照査	217

II. 鋼板コンクリート合成版編

1 章 総 則	219
2 章 構造解析および応答値の算定	225
3 章 性能照査における前提	231
4 章 安全性に関する照査	236
5 章 使用性に関する照査	244
6 章 復旧性に関する照査	247

III. 鋼コンクリートサンドイッチ合成版編

1 章 総 則	249
2 章 構造解析および応答値の算定	254
3 章 性能照査における前提	259
4 章 安全性に関する照査	265
5 章 使用性に関する照査	274
6 章 復旧性に関する照査	277

IV. 鉄骨鉄筋コンクリート部材編

1 章 総 則	279
2 章 構造解析および応答値の算定	283
3 章 性能照査における前提	302
4 章 安全性に関する照査	311
5 章 使用性に関する照査	322
6 章 復旧性に関する照査	325

V. コンクリート充填鋼管部材編

1章 総 則	329
2章 構造解析および応答値の算定	337
3章 性能照査における前提	351
4章 安全性に関する照査	356
5章 使用性に関する照査	363
6章 復旧性に関する照査	366

VI. FRP部材編

1章 総 則	371
2章 構造解析および応答値の算定	377
3章 性能照査における前提	385
4章 安全性に関する照査	395
5章 使用性に関する照査	408
6章 復旧性に関する照査	412

VII. 異種部材接合部編

1章 総 則	415
2章 構造解析および応答値の算定	419
3章 性能照査における前提	429
4章 安全性に関する照査	433
5章 使用性に関する照査	440
6章 復旧性に関する照査	444
7章 鋼桁と鉄筋コンクリート橋脚の接合部の照査	447
8章 鋼部材とプレストレストコンクリート部材の接合部の照査	452
9章 鋼部材とプレストレストコンクリート部材の支圧接合部の照査	458
10章 コンクリート充填鋼管部材のアンカーフレーム方式による接合部の照査	463
11章 コンクリート充填鋼管部材の埋込み方式による接合部の照査	469
12章 コンクリート充填鋼管部材のソケット方式による接合部の照査	476

VIII. 有限要素解析による性能照査編

1章 総 則	483
2章 材料のモデル化	493
3章 応答値の算定	522
4章 照 査	540
5章 解析の検証と妥当性評価	549

[I . 合成はり編]

目 次

1章 総 則	169
1.1 適用の範囲	169
1.2 照査に関する一般事項	170
1.2.1 一 般	170
1.2.2 作 用	171
1.2.3 材 料	172
1.3 用語の定義	172
1.4 記 号	172
2章 構造解析および応答値の算定	174
2.1 一 般	174
2.2 部材のモデル化	174
2.2.1 一 般	174
2.2.2 線材モデル	175
2.2.3 有限要素モデル	178
2.3 構造解析	178
2.3.1 一 般	178
2.3.2 床版にひび割れを許容する場合の構造解析	179
2.4 設計応答値の算定	179
2.4.1 一 般	179
2.4.2 断 面 力	180
2.4.3 応 力 度	182
2.4.4 ひび割れ幅	182
2.4.5 変位・変形	183
3章 性能照査における前提	184
3.1 一 般	184
3.2 耐久性に関する検討	184
3.3 構造細目	185
3.3.1 一 般	185
3.3.2 コンクリート床版と鋼はり	186
3.3.3 鉄筋配置	186
3.3.4 ずれ止め	187
3.4 施工に関する検討	187
3.4.1 一 般	187

3.4.2	鋼部材	187
3.4.3	コンクリート	188
4章	安全性に関する照査	190
4.1	一般	190
4.2	断面破壊に対する照査	190
4.2.1	一般	190
4.2.2	合成前に対する照査（架設時の照査）	191
4.2.3	合成後に対する照査	191
4.2.3.1	曲げモーメントおよび軸方向力に対する照査	191
4.2.3.2	合成はりにおける曲げモーメントに対する照査	191
4.2.3.3	せん断力に対する照査	199
4.2.3.4	鋼部材とコンクリート部材からなる合成はりにおける曲げとせん断の組合せに対する照査	204
4.2.3.5	ねじりに対する照査	204
4.2.3.6	波形鋼板の継手の設計せん断耐力	207
4.2.3.7	波形鋼板とフランジ鋼板の溶接部の照査	208
4.2.3.8	鋼部材とコンクリート部材からなる合成はりにおけるずれ止めの照査	209
4.3	疲労破壊に対する照査	211
5章	使用性に関する照査	214
5.1	一般	214
5.2	使用性の照査の前提	214
5.3	快適性に対する照査	214
5.3.1	一般	214
5.3.2	外観に対する照査	215
5.3.3	振動に対する照査	215
5.3.4	変位・変形に対する照査	215
5.4	機能性に対する照査	216
5.4.1	一般	216
5.4.2	水密性に対する照査	216
6章	復旧性に関する照査	217
6.1	一般	217
6.2	地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	217
6.3	火災作用に対する修復性の照査	218
6.4	環境作用に対する修復性の照査	218

[Ⅱ. 鋼板コンクリート合成版編]

目 次

1章 総 則	219
1.1 適用の範囲	219
1.2 照査に関する一般事項	220
1.2.1 一 般	220
1.2.2 作 用	221
1.2.3 材 料	222
1.3 用語の定義	223
1.4 記 号	223
2章 構造解析および応答値の算定	225
2.1 一 般	225
2.2 部材のモデル化	226
2.2.1 一 般	226
2.2.2 線材モデル	227
2.2.3 有限要素モデル	227
2.3 構造解析	227
2.4 設計応答値の算定	228
2.4.1 一 般	228
2.4.2 断 面 力	228
2.4.3 応 力 度	228
2.4.4 ずれ止めに作用するせん断力	229
2.4.5 ひび割れ幅	229
2.4.6 変位・変形	230
3章 性能照査における前提	231
3.1 一 般	231
3.2 耐久性に関する検討	231
3.3 構造細目	232
3.3.1 一 般	232
3.3.2 鋼板とコンクリート	232
3.3.3 コンクリートの最小厚さ	232
3.3.4 鋼板の最小厚さ	233
3.3.5 鉄筋配置	233
3.3.6 ずれ止め	233
3.3.7 ずれ止めの高さ	233

3.3.8	鋼板の防錆・防食の対策	234
3.4	施工に関する検討	234
3.4.1	一般	234
3.4.2	鋼部材の輸送	234
3.4.3	鋼板の現場継手	235
3.4.4	コンクリートの打込み	235
3.4.5	止水工	235
4章	安全性に関する照査	236
4.1	一般	236
4.2	断面破壊に対する照査	236
4.2.1	一般	236
4.2.2	合成前に対する照査	237
4.2.3	合成後に対する照査	237
4.2.3.1	曲げモーメントおよび軸方向力に対する照査	237
4.2.3.2	せん断力に対する照査	237
4.2.3.3	ねじりに対する照査	240
4.2.3.4	ずれ止めに対する照査	240
4.3	疲労破壊に対する照査	242
5章	使用性に関する照査	244
5.1	一般	244
5.2	使用性の照査の前提	244
5.3	快適性に対する照査	244
5.3.1	一般	244
5.3.2	外観に対する照査	244
5.3.3	振動に対する照査	245
5.3.4	変位・変形に対する照査	245
5.4	機能性に対する照査	245
5.4.1	一般	245
5.4.2	水密性に対する照査	245
6章	復旧性に関する照査	247
6.1	一般	247
6.2	地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	247
6.3	火災作用に対する修復性の照査	248
6.4	環境作用に対する修復性の照査	248

[Ⅲ. 鋼コンクリートサンドイッチ合成版編]

目 次

1章 総 則	249
1.1 適用の範囲	249
1.2 照査に関する一般事項	250
1.2.1 一 般	250
1.2.2 作 用	250
1.2.3 材 料	251
1.3 用語の定義	252
1.4 記 号	252
2章 構造解析および応答値の算定	254
2.1 一 般	254
2.2 部材のモデル化	255
2.2.1 一 般	255
2.2.2 線材モデル	256
2.2.3 有限要素モデル	256
2.3 構造解析	256
2.4 設計応答値の算定	257
2.4.1 一 般	257
2.4.2 断 面 力	257
2.4.3 応 力 度	257
2.4.4 変位・変形	258
3章 性能照査における前提	259
3.1 一 般	259
3.2 耐久性に関する検討	259
3.3 構造細目	260
3.3.1 一 般	260
3.3.2 鋼板とコンクリート	260
3.3.3 鋼 板	260
3.3.4 鋼板の開口部	261
3.3.5 ずれ止め	261
3.3.6 隅 角 部	261
3.4 施工に関する検討	262
3.4.1 一 般	262
3.4.2 空気抜き孔	263

3.4.3	コンクリートの充填	264
4章	安全性に関する照査	265
4.1	一般	265
4.2	断面破壊に対する照査	265
4.2.1	一般	265
4.2.2	合成前に対する照査	266
4.2.3	合成後に対する照査	266
4.2.3.1	曲げモーメントおよび軸方向力に対する照査	266
4.2.3.2	せん断力に対する照査	267
4.2.3.3	ねじりに対する照査	271
4.2.3.4	ずれ止めに対する照査	271
4.3	疲労破壊に対する照査	273
5章	使用性に関する照査	274
5.1	一般	274
5.2	使用性の照査の前提	274
5.3	快適性に対する照査	274
5.3.1	一般	274
5.3.2	外観に対する照査	274
5.3.3	振動に対する照査	275
5.3.4	変位・変形に対する照査	275
5.4	機能性に対する照査	275
5.4.1	一般	275
5.4.2	水密性に対する照査	275
6章	復旧性に関する照査	277
6.1	一般	277
6.2	地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	277
6.3	火災作用に対する修復性の照査	278
6.4	環境作用に対する修復性の照査	278

[IV. 鉄骨鉄筋コンクリート部材編]

目 次

1章 総 則	279
1.1 適用の範囲	279
1.2 照査に関する一般事項	280
1.2.1 一 般	280
1.2.2 作 用	281
1.3 用語の定義	282
1.4 記 号	282
2章 構造解析および応答値の算定	283
2.1 一 般	283
2.2 部材のモデル化	284
2.2.1 一 般	284
2.2.2 線材モデル	285
2.2.3 有限要素モデル	294
2.3 構造解析	294
2.4 設計応答値の算定	294
2.4.1 一 般	294
2.4.2 断 面 力	295
2.4.3 応 力 度	296
2.4.4 ひび割れ幅	298
2.4.5 変位・変形	301
3章 性能照査における前提	302
3.1 一 般	302
3.2 耐久性に関する検討	302
3.3 構造細目	303
3.3.1 一 般	303
3.3.2 か ぶ り	303
3.3.3 鉄 骨	303
3.3.4 鉄骨と鉄筋の材料および配置	304
3.3.5 鋼 材 量	305
3.3.6 せん断補強鋼材	307
3.3.7 鉄骨の連結	308
3.3.8 部材接合部	308
3.3.9 コンクリート被覆鋼管部材の構造細目	309

3.4	施工に関する検討	310
3.4.1	一般	310
3.4.2	鉄骨の製作	310
4章	安全性に関する照査	311
4.1	一般	311
4.2	断面破壊に対する照査	311
4.2.1	一般	311
4.2.2	合成前に対する照査	312
4.2.3	合成後に対する照査	313
4.2.3.1	曲げモーメントおよび軸方向力に対する照査	313
4.2.3.2	せん断力に対する照査	315
4.2.3.3	ねじりに対する照査	320
4.3	疲労破壊に対する照査	321
5章	使用性に関する照査	322
5.1	一般	322
5.2	使用性の照査の前提	322
5.3	快適性に対する照査	322
5.3.1	一般	322
5.3.2	外観に対する照査	323
5.3.3	振動に対する照査	323
5.3.4	変位・変形に対する照査	323
5.4	機能性に対する照査	323
5.4.1	一般	323
5.4.2	水密性に対する照査	324
6章	復旧性に関する照査	325
6.1	一般	325
6.2	地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	325
6.2.1	一般	325
6.2.2	部材の設計限界値	326
6.2.3	構造物の残留変位に対する照査	327
6.3	火災作用に対する修復性の照査	328
6.4	環境作用に対する修復性の照査	328

[V. コンクリート充填鋼管部材編]

目 次

1章 総 則	329
1.1 適用の範囲	329
1.2 照査に関する一般事項	331
1.2.1 一 般	331
1.2.2 作 用	331
1.2.3 材 料	332
1.3 用語の定義	336
1.4 記 号	336
2章 構造解析および応答値の算定	337
2.1 一 般	337
2.2 部材のモデル化	338
2.2.1 一 般	338
2.2.2 線材モデル	339
2.2.3 有限要素モデル	347
2.3 構造解析	347
2.4 設計応答値の算定	348
2.4.1 一 般	348
2.4.2 断 面 力	348
2.4.3 応 力 度	349
2.4.4 変位・変形	349
3章 性能照査における前提	351
3.1 一 般	351
3.2 耐久性に関する検討	351
3.3 構造細目	352
3.3.1 一 般	352
3.3.2 鋼管と充填コンクリート	352
3.3.3 鋼 管	353
3.3.4 ダイヤフラム	353
3.3.5 鋼管の継手	354
3.3.6 細 長 比	354
3.4 施工に関する検討	354
3.4.1 一 般	354
3.4.2 鋼管の製作	355

4章 安全性に関する照査	356
4.1 一般	356
4.2 断面破壊に対する照査	356
4.2.1 一般	356
4.2.2 合成前に対する照査	357
4.2.3 合成後に対する照査	357
4.2.3.1 曲げモーメントおよび軸方向力に対する照査	357
4.2.3.2 せん断力に対する照査	360
4.2.3.3 ねじりに対する照査	361
4.3 疲労破壊に対する照査	361
5章 使用性に関する照査	363
5.1 一般	363
5.2 使用性の照査の前提	363
5.3 快適性に対する照査	363
5.3.1 一般	363
5.3.2 外観に対する照査	364
5.3.3 振動に対する照査	364
5.3.4 変位・変形に対する照査	364
5.4 機能性に対する照査	364
5.4.1 一般	364
5.4.2 水密性に対する照査	365
6章 復旧性に関する照査	366
6.1 一般	366
6.2 地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	366
6.2.1 一般	366
6.2.2 部材の設計限界値	367
6.2.3 構造物の残留変位に対する照査	369
6.3 火災作用に対する修復性の照査	369
6.4 環境作用に対する修復性の照査	369

[VI. FRP部材編]

目 次

1章 総 則	371
1.1 適用の範囲	371
1.2 照査に関する一般事項	373
1.2.1 一 般	373
1.2.2 作 用	373
1.2.3 材 料	374
1.3 用語の定義	376
1.4 記 号	376
2章 構造解析および応答値の算定	377
2.1 一 般	377
2.2 部材のモデル化	378
2.2.1 一 般	378
2.2.2 線材モデル	378
2.2.3 有限要素モデル	380
2.3 構造解析	380
2.4 設計応答値の算定	380
2.4.1 一 般	380
2.4.2 断 面 力	381
2.4.3 応 力 度	381
2.4.4 ひび割れ幅	382
2.4.5 変位・変形	383
3章 性能照査における前提	385
3.1 一 般	385
3.2 耐久性に関する検討	385
3.3 クリープに対する検討	386
3.4 構造細目	386
3.4.1 一 般	386
3.4.2 FRP はり	387
3.4.2.1 FRP はりの補剛	387
3.4.2.2 FRP はりの支持構造	387
3.4.2.3 FRP はり上の版および床組	388
3.4.2.4 接 合 部	389
3.4.3 補強用 FRP が接着された鋼部材	390

3.4.4	補強用 FRP が接着または巻き立てられたコンクリート部材	392
3.4.4.1	部材の隅角部	392
3.4.4.2	補強用 FRP の継手	392
3.4.4.3	補強用 FRP の機械的定着	393
3.5	施工に関する検討	393
3.5.1	一般	393
3.5.2	FRP はりの製作	394
4 章	安全性に関する照査	395
4.1	一般	395
4.2	断面破壊に対する照査	395
4.2.1	一般	395
4.2.2	FRP はりの断面破壊に対する照査	396
4.2.2.1	軸方向力に対する照査	396
4.2.2.2	曲げモーメントに対する照査	398
4.2.2.3	せん断力に対する照査	399
4.2.2.4	軸方向力と曲げモーメントの組合せに対する照査	400
4.2.2.5	曲げモーメントとせん断力の組合せに対する照査	400
4.2.2.6	接合部に対する照査	401
4.2.3	補強用 FRP が接着された鋼部材の断面破壊に対する照査	402
4.2.3.1	一般	402
4.2.3.2	軸方向力に対する照査	402
4.2.3.3	曲げモーメントに対する照査	403
4.2.3.4	断面力の組合せに対する照査	404
4.2.4	補強用 FRP が接着または巻き立てられたコンクリート部材の断面破壊に対する照査	404
4.2.4.1	曲げモーメントおよび軸方向力に対する照査	404
4.2.4.2	棒部材のせん断力に対する照査	405
4.3	疲労破壊に対する照査	406
5 章	使用性に関する照査	408
5.1	一般	408
5.2	使用性の照査の前提	408
5.3	快適性に対する照査	408
5.3.1	一般	408
5.3.2	外観に対する照査	409
5.3.3	振動に対する照査	409
5.3.4	変位・変形に対する照査	410
5.4	機能性に対する照査	410
5.4.1	一般	410
5.4.2	水密性に対する照査	411

6章 復旧性に関する照査	412
6.1 一般	412
6.2 地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	412
6.3 火災作用に対する修復性の照査	413
6.4 環境作用に対する修復性の照査	414

[VII. 異種部材接合部編]

目 次

1章 総 則	415
1.1 適用の範囲	415
1.2 照査に関する一般事項	416
1.3 用語の定義	418
1.4 記 号	418
2章 構造解析および応答値の算定	419
2.1 一 般	419
2.2 接合部のモデル化	420
2.2.1 構造物の全体の解析における接合部のモデル化	420
2.2.2 接合部局部解析における伝達要素のモデル化	423
2.3 構造解析	424
2.3.1 一 般	424
2.3.2 安全性の照査に関する構造解析	425
2.3.3 使用性の照査に関する構造解析	425
2.3.4 復旧性の照査に関する構造解析	426
2.4 設計応答値の算定	426
2.4.1 一 般	426
2.4.2 断面力の算定	427
2.4.3 応力度の算定	427
2.4.4 ひび割れ幅	428
2.4.5 変位・変形	428
3章 性能照査における前提	429
3.1 一 般	429
3.2 耐久性に関する検討	429
3.2.1 一 般	429
3.2.2 鋼材の腐食	429
3.2.3 コンクリートの劣化	430
3.3 構造細目	430
3.3.1 一 般	430
3.3.2 異種部材接合部の補強	431
3.3.3 異種部材接合部の一体性	431
3.3.4 排水・防水処理	431
3.4 施工に関する検討	432

4章 安全性に関する照査	433
4.1 一般	433
4.2 接合部の断面破壊に対する照査	435
4.3 接合部の疲労破壊に対する照査	439
5章 使用性に関する照査	440
5.1 一般	440
5.2 使用性に関する照査の前提	440
5.3 快適性に関する照査	441
5.3.1 一般	441
5.3.2 外観に対する照査	441
5.3.3 変位・変形に対する照査	443
5.4 機能性に関する照査	443
5.4.1 一般	443
5.4.2 水密性に対する照査	443
6章 復旧性に関する照査	444
6.1 一般	444
6.2 地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	444
6.3 火災作用に対する修復性の照査	446
6.4 環境作用に対する修復性の照査	446
7章 鋼桁と鉄筋コンクリート橋脚の接合部の照査	447
7.1 一般	447
7.2 構造解析および応答値の算定	448
7.3 性能照査における前提	448
7.4 安全性に関する照査	448
7.4.1 一般	448
7.4.2 断面破壊に対する照査	449
7.4.3 疲労破壊に対する照査	450
7.5 使用性に関する照査	451
7.6 復旧性に関する照査	451
8章 鋼部材とプレストレストコンクリート部材の接合部の照査	452
8.1 一般	452
8.2 構造解析および応答値の算定	453
8.3 性能照査における前提	453
8.4 安全性に関する照査	454
8.4.1 一般	454
8.4.2 断面破壊に対する照査	454
8.4.3 疲労破壊に対する照査	456
8.5 使用性に関する照査	456

8.6	復旧性に関する照査	457
9章	鋼部材とプレストレストコンクリート部材の支圧接合部の照査	458
9.1	一般	458
9.2	構造解析および応答値の算定	458
9.3	性能照査における前提	459
9.4	安全性に関する照査	459
9.4.1	一般	459
9.4.2	断面破壊に対する照査	460
9.4.3	疲労破壊に対する照査	461
9.5	使用性に関する照査	462
9.6	復旧性に関する照査	462
10章	コンクリート充填鋼管部材のアンカーフレーム方式による接合部の照査	463
10.1	一般	463
10.2	構造解析および応答値の算定	464
10.3	性能照査における前提	465
10.4	安全性に関する照査	466
10.4.1	一般	466
10.4.2	断面破壊に対する照査	466
10.4.3	疲労破壊に対する照査	468
10.5	使用性に関する照査	468
10.6	復旧性に関する照査	468
11章	コンクリート充填鋼管部材の埋込み方式による接合部の照査	469
11.1	一般	469
11.2	構造解析および応答値の算定	470
11.3	性能照査における前提	470
11.4	安全性に関する照査	472
11.4.1	一般	472
11.4.2	断面破壊に対する照査	472
11.4.3	疲労破壊に対する照査	475
11.5	使用性に関する照査	475
11.6	復旧性に関する照査	475
12章	コンクリート充填鋼管部材のソケット方式による接合部の照査	476
12.1	一般	476
12.2	構造解析および応答値の算定	477
12.3	性能照査における前提	477
12.4	安全性に関する照査	477
12.4.1	一般	477
12.4.2	断面破壊に対する照査	478

12.4.3 疲労破壊に対する照査	480
12.5 使用性に関する照査	481
12.6 復旧性に関する照査	481

[Ⅷ. 有限要素解析による性能照査編]

目 次

1章 総 則	483
1.1 適用の範囲	483
1.2 解析計画	486
1.3 解析手法の検証	489
1.3.1 検証の方法	489
1.3.2 解析モデルの改善	490
1.3.3 適用範囲の検討	490
1.4 用語の定義	491
2章 材料のモデル化	493
2.1 一 般	493
2.2 コンクリートのモデル化	494
2.2.1 一 般	494
2.2.2 ひび割れのモデル化	495
2.2.3 引張応力下における応力-ひずみ関係	497
2.2.4 ひび割れ面におけるせん断伝達モデル	499
2.2.5 圧縮応力下における応力-ひずみ関係	501
2.3 鋼材のモデル化	504
2.3.1 鉄筋のモデル化	504
2.3.2 PC 鋼材のモデル化	511
2.3.3 構造用鋼材のモデル化	512
2.4 FRP のモデル化	514
2.4.1 構造用 FRP のモデル化	514
2.4.2 補強用 FRP のモデル化	514
2.5 異種材料間の境界面のモデル化	515
2.5.1 一 般	515
2.5.2 ずれ止めによる鋼-コンクリート接合面のモデル化	516
2.5.3 ずれ止めを用いない異種材料間の境界面のモデル化	517
2.5.4 鉄筋コンクリート部材接合面のモデル化	519
3章 応答値の算定	522
3.1 一 般	522
3.2 作用のモデル化	522
3.3 構造物のモデル化	525
3.3.1 一 般	525

3.3.2	部材のモデル化	528
3.3.3	部材接合部のモデル化	532
3.4	応答解析	532
3.5	設計応答値の算定	534
3.5.1	一般	534
3.5.2	応力、ひずみによる指標の算定	535
3.5.3	応力度の算定	537
3.5.4	断面力の算定	538
3.5.5	変位・変形の算定	538
3.5.6	コンクリートのひび割れ幅の算定	539
4章	照査	540
4.1	一般	540
4.2	安全性に関する照査	541
4.2.1	最大作用による破壊（断面破壊）に対する照査	541
4.2.2	繰返し作用による破壊（疲労破壊）に対する照査	543
4.2.3	構造物の安定性に対する照査	543
4.2.4	構造物の機能上の安全性に対する照査	544
4.3	使用性に関する照査	544
4.3.1	使用性に関する照査の前提	544
4.3.2	快適性に対する照査	544
4.3.3	機能性に対する照査	545
4.4	復旧性に関する照査	545
4.4.1	地震の影響や変動作用に対する修復性の照査	545
4.4.2	火災作用に対する修復性の照査	548
5章	解析の検証と妥当性評価	549
5.1	一般	549
5.2	事前検証	549
5.3	解析の検証	551
5.4	解析の妥当性評価	553
5.5	第三者評価	556

複合構造標準示方書 設計編

[改訂資料]

目 次

I. 設計編の全体概要	563
1. [設計編]の構成の改訂	563
2. 各編の改訂の概要	565
II. 標準編	567
1. 「1章 総則」について	567
2. 「2章 設計の基本」について	567
3. 「3章 性能照査の基本」について	568
4. 「4章 材料の設計値」について	573
5. 「5章 ずれ止め」について	578
6. 「6章 作用」について	588
7. 「7章 構造解析および応答値の算定」について	591
8. 「8章 性能照査における前提」について	595
9. 「9章 安全性に関する照査」について	598
10. 「10章 使用性に関する照査」について	598
11. 「11章 復旧性に関する照査」について	598
III. 合成はり編	599
1. 「1章 総則」について	599
2. 「3章 性能照査における前提」について	599
3. クリープおよび収縮の取り扱いについて	599
4. 合成はりに用いられるその他のずれ止めに関する参考資料	600
5. 鋼・コンクリート二重合成I桁橋に関する参考資料	605
IV. 鋼板コンクリート合成版編	608
1. 「3章 性能照査における前提」について	608
2. 「4章 安全性に対する照査」について	609
V. 鋼コンクリートサンドイッチ合成版編	615
VI. 鉄骨鉄筋コンクリート部材編	616
1. 「1章 総則」について	616

2. 「2章 構造解析および応答値の算定」について	616
3. 「3章 性能照査における前提」について	621
4. 「4章 安全性に関する照査」について	621
5. 今後の課題	624
VII. コンクリート充填鋼管部材編	626
1. 「1章 総則」について	626
2. 「2章 構造解析および応答値の算定」について	628
3. 「3章 性能照査における前提」について	631
VIII. FRP部材編	633
1. 「FRP部材編」制定について	633
2. 「1章 総則」について	637
3. 「2章 構造解析および応答値の算定」について	645
4. 「3章 性能照査における前提」について	651
5. 「4章 安全性に関する照査」について	656
6. 「5章 使用性に関する照査」について	660
7. 「6章 復旧性に関する照査」について	661
8. 「付属資料 土木構造用FRPの品質規格(案)」について	663
IX. 異種部材接合部編	665
1. 「1章 総則」について	665
2. 「2章 構造解析および応答値の算定」について	665
3. 「3章 性能照査における前提」について	667
4. 「4章 安全性に関する照査」について	668
5. 「6章 復旧性に関する照査」について	669
6. 7章から12章について	669
X. 有限要素解析による性能照査編	671
1. 制定の経緯と全体概要	671
2. コンクリートのモデル化	676
3. 鋼材のモデル化	688
4. FRPのモデル化	691
5. 異種材料間の境界面のモデル化	692
6. 作用および構造物のモデル化	706
7. 照査に用いる材料の損傷指標と限界値	709
8. 解析の検証と妥当性評価	714
9. 解析例	716